

令和6年度 第1回 東大阪市総合教育会議

1 日時 令和7年2月21日（金）

開会午後4時00分

閉会午後4時55分

2 場所 本庁舎18階 会議室1及び会議室2

3 出席者

市長	野田 義和
----	-------

（教育委員会）

教育長	古川 聖登
教育長職務代理者	秦 卓宏
委員	堤 晶子
委員	山中 雅仁
委員	田中 宏一

（出席説明員）

教育次長（教育監事務取扱）	森田 好一
教育次長（学校施設整備監事務取扱）	永吉 勝則
学校教育部長	太田 恭子
社会教育部長	早崎 順一
学校教育部次長	杉本 篤史
教育政策室長	西田 幸史
小中一貫教育推進室長	西野 要
学校教育推進室長	中渕 一博
教育センター所長	阪本 みどり
教育政策室次長	笠松 博

（事務局）

市長公室長	中西 賢治
-------	-------

4 第1回会議の議事録

(1) 配付資料

- ・ 次第
- ・ 令和7年度主要事業案
- ・ 令和7年度教育委員会における組織改正について
- ・ 社会福祉法人青山会との連携による不登校支援事業について

(2) 開会

市長挨拶

(3) 議題

- ① 令和7年度主要事業案について
- ② その他

(4) 令和7年度主要事業案とその他案件の説明及び意見交換

中西公室長

それでは定刻になりましたので、令和6年度第1回総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の案件は、

1. 令和7年度主要事業案について
2. その他

となっております。

それではこの後の議事進行は、野田市長にお願いいたします。

野田市長

本日はお忙しい中、教育長をはじめ教育委員の皆様にはお集まりいただきまして、ありがとうございます。

それでは、令和6年度第1回総合教育会議を開会いたします。

本日の案件は、

1. 令和7年度主要事業案について
2. その他

ということで、2案件併せて意見交換をさせていただきたいと考えております。

それでは早速ですが、お手元の資料に基づき、教育長より説明いたします。

古川教育長

私からは、令和7年度の主要事業案について配付しております資料に沿いまして簡単にご説明をいたします。

最初にスクールソーシャルワーカー配置事業についてですが、不登校やいじめ、問題行

動、虐待等の背景には、子どもを取り巻く環境が大きな影響を与えており、早期対応はもちろんのこと、関係機関や専門家等も加わったチームを編成し、その環境改善を図る必要があります。

教職員等への研修や、ケース会議でのアセスメント及びプランニングの支援、教職員や支援人材と関係機関等とのネットワークの構築による子ども・保護者への支援体制の充実を図るためにスクールソーシャルワーカーを配置するものでございます。

次に小学校給食無償化事業ですが、市立小学校及び市立義務教育学校（前期）の児童保護者の経済的負担を軽減するため、すべての学年を対象とし恒久的に小学校給食費を無償化するものでございます。

次に校内教育支援ルーム「SSR」支援員配置についてですが、不登校児童生徒が増加するなか、教育の機会を保障し個々の状況に応じた最適な支援を実施するため、小・中学校の校内教育支援ルーム「SSR」に支援員を配置し支援体制の充実を図るものでございます。

次にその他として令和7年度教育委員会における組織改正についてですが、これまで進めてきた小中一貫教育を継続的に推進するとともに学校規模の適正化や中央教育審議会が示す「令和の日本型学校教育」に基づき、学校教育に係る諸課題に対し、事務局横断的な施策や取り組みの企画・調査および調整を行うため、令和7年度より新たに「みらい教育室」を設置し、組織を再編するものでございます。

最後に社会福祉法人青山会との連携による不登校支援事業についてですが、本市教育委員会と社会福祉法人青山会が連携のうえ、不登校等児童生徒に対する支援事業として、障害福祉事業所を活用した職場体験を行うものでございます。

私からの説明は以上でございます。

野田市長)

ただいま教育長より説明がありましたが、教育委員の皆様から何かございますでしょうか。

古川教育長)

田中委員がおられますので、取り組みについて伺いしては如何でしょうか。

野田市長)

はい、そうですね。田中委員お願いできますでしょうか。

田中委員)

不登校支援事業「職場体験そばにいるよ」のきっかけは、行政としましては、不登校支援についていろんな対応をしてきていますが、基本的に、いろんな議論をしながら話を進めて、計画を立てて予算をつけて話していかないといけないというのが前提にあって、その先、実際に事業を開始してから、想像と違うとか、方向転換をしないとけないとかというときに、しっかり計画を立ててきた分、やっぱりなかなか方向転換がしにくい部分もあるかとは思っています。なにより、お金がかかりますし。その点、社会福祉法人なら、施設も持つ

ていますし、マンパワーもあります。そういったところから、社会福祉法人として、地域貢献できるのではないかと考えたのがきっかけです。教育と福祉はとても親和性が高いと思っています。教師のように教科を教えることはできないですが、家で一人寂しく居る子どもたちであるとか、どこに行ったらいいだろうと悩んでいる子たちに対して、一緒に職場体験活動を通じて、コミュニケーションを取ることで、本人たちにとって何か安心できるという環境を作りたい。という思いです。

まだ始めたばかりで、受け入れもまだ0件ではありますが、現在コミュニティソーシャルワーカーから1件、施設の見学をしたいという話で動いている状況です。
今後1年かけて報告させていただきたいと思っております。

野田市長)

ありがとうございます。

運営されておられる社会福祉法人の施設に来てくれるかどうか、不登校の子どもの話などで難しいところも多々あると思います。

子どもたちに足を運んでいただいて、その後はその法人施設の支援員さんのお手伝いみたいな形をする訳ですかね。

田中委員)

はい。まずご利用者がいまして、ご利用者を支援する支援員がいるのですが、その支援側の補助をしていただこうかなと思っております。なので、イベントで盛り上げる役であったり、東大阪とかでしたらねじの仕事とかも結構受けたりさせて貰っているんですけど、ねじの会社さんに行って、お仕事を貰うなど、そういったものも手伝っていただこうかなと考えております。

野田市長)

そこで勉強はされないんですよね。

田中委員)

はい。勉強については今のところ予定はありません。

野田市長)

そういう環境があって、誰かのために動くことは子どもにとっては良い影響を与えるでしょうね。素晴らしいことだし、期待できますね。

古川教育長)

今回の青山会のお申し出につきましては、いわゆる子どもたちを社会でどう育てるかということに関して言えば、学校の仕事だとか、役所で何とかして欲しいというようなことだけではなくて、社会全体で子どもたちを育てていこうという、私どもが次に進むべき社

会の先駆的な取り組みの1つではないかというように私は考えています。

大変ありがたい申し出であり、学校と社会をつなぐという意味でしっかり連携したいと思います。

野田市長)

他に何かありますか。

堤委員)

これまでもスクールソーシャルワーカーの方々にご活躍いただき、学校や子どもたちに対して良い影響、問題解決をしていただいていると思いますが、それをもう少し具体的に教えていただければと思います。

中渚学校教育推進室長)

スクールソーシャルワーカーにつきましては令和6年度につきましては、21拠点ということで中学校区の小学校の拠点配置ということで進めさせていただいております。

福祉的な視点から子どもを取り巻く環境の改善であったり悩みを持つ保護者への支援を行ったり、また教職員からの相談を受けたりとか、ケース会議に参加したりなど、福祉的な視点からアドバイスをいただきながら問題解決を進めさせていただいているところでございます。

古川教育長)

関連ですが最近、学校長との面談の中でも保護者の見えにくい部分をスクールソーシャルワーカーに聞いてもらえることは大変ありがたいという話を学校長から聞いております。

野田市長)

スクールソーシャルワーカーはどんな方に担っていただいていますか。

中渚学校教育推進室長)

東大阪市におきましては、スクールソーシャルワーカーについては資格を持っている方ということで社会福祉士や精神保健福祉士を持っている方をお願いしております。

野田市長)

学校現場での経験がある方もおられれば学校というところに初めて配属される方もいらっしゃるという認識ですか。

中渚学校教育推進室長)

その通りです。

堤委員)

不登校の子たちは、文科省が進めようとしている「個別最適な学び」を最も必要としている子どもたちではないのかなと感じています。

スクールソーシャルワーカーには先生方と一緒にその子の個別最適化っていうのはどういった学びかを考えていただき、こういうような対応をしていきたいと思いますというふうなお話もいただきたいなと思います。

古川教育長)

そこは是非スクールソーシャルワーカーと連携しながら状況に応じて、学習の最適化について提起して対応していくものと考えておりますが、今のご意見を踏まえてさらに、配慮していきたいと考えております。

野田市長)

学校現場は教員だけではなく教員を支え、学校そのものを支えていく多様な人材というものを配置していった方が良いと思います。

これは中教審あたりでも、こういうような議論がかなり出てきているということで聞いていますけれども、もちろん人材がおられるかおられないか。

当然、雇用ということに関わってくると財源の課題がありますが我々も考えていかなきゃいけないですね。

国レベルで学校現場をどう支えていくとか、どう作っていくかっていうのは大変重要なことだと思います。

私の友人がニューヨーク在住で中学3年生ぐらいの子どもがおりますが、話を聞くとすごく手厚いんですね、

アメリカは放任主義なのかなと思っていたがなかなか自分で頑張ることができない子どもたちにも日本とは比べようがないくらいすごく手厚い。そういう意味では非常に充実していますよっていうお話を聞きました。

市としていろんな場面で府教委や文科省にもその必要性というものをしっかりと、我々の立場で訴えることが大事だと認識しております。

山中委員)

今回の組織改正は事務局横断的な組織ということですが、さらに深化してやっていくというようなイメージですかね。

森田教育次長)

行政は縦割りと言われますけれども、学校教育部におきましても横の連携はなかなか取りにくいというような現状で今いただきましたように横串を刺すというか包括的に捉えながら課題を調整したり、或いは情報を適宜分析したりしながら進めていきたいと考えております。

この間はそういうところに課題を感じていたため、そういったあたりを改善していくこと

で情報だけではなくその取り組みの機能化が図れたらと考えています。

山中委員)

様々、課題はあると思いますが我々、教育委員含めてしっかりとあらゆる業務に対応できるようによろしくお願いいたします。

秦委員)

先ほども市長がおっしゃられたスクールソーシャルワーカーというものが海外では非常に手厚い。以前ちょっと市長がおっしゃられた子どもが持っている好きなものっていうものは日本ではなかなか伸ばしにくい。それをやっぱり伸ばしていくことが大事だって言うておられました。堤委員も同じくおっしゃられた好きなものを大事にしていってという、そういう教育はなかなか日本では考えられにくい。

スクールソーシャルワーカーの方々には個人的な要望ですが、学校に行きにくい、何で行きにくいかっていうと、やっぱり日本じゃ平均的に何かをやらないといけない。ある部分には秀でていても何かあかんというふうになるのではなくて、得意な分野があるんだったらそれを伸ばしていくっていう考え方がこれからは大事なんじゃないかと思います。

スクールソーシャルワーカーの方々にもそういった部分を後押ししていただけたらなと思っております。

古川教育長)

今、学校ではキャリア教育に力を入れておりまして、例えば町工場の方にいろんなモノづくりを教えていただいたり、またいろんな事業所に出掛けてプロの仕事を学んだり、そういう何かやりたいことを見つけるための教育を意識しながら、スクールソーシャルワーカーの方々にも自分の好きなことを見つけられるような支援をしていただけたらと思っております。

野田市長)

普段から学力向上に関して言っていますが、もちろんこれも大事だと思います。ただこの学力向上も例えば英語は0点でも極端な話、数学は100点っていうのもありなんじゃないかと。

日本の高校あたりに行くと欠点を取ったら卒業できないとか、進学進級できないとかあります。

だけど一方でなんかすごくこの科目、これはっていうふうなのがあれば、欠点を補うとか、あると思う。

だからそういう意味ではみんな70点、75点取れば良いよじゃなくてやっぱり子どもたちも学ぶことが楽しいと思えるようなものが必要だと思います。

究極の理想っていうのは、家より学校が楽しいことだと思います。

学校が楽しいから家に帰りたくない。

夏休みの40日間、学校が休みなんて苦痛でたまらない。

土曜日の夜になったら明日学校に行けないから震えがくる。

何かそういうふうな学校になったら良いなと思います。

そんな話をすると現場の先生方もすごく大変だろうと思いますし、余計にプレッシャーを与えてしまう気がします。

難しいと思いますがスクールソーシャルワーカーの方々も含めて、子どもたちがやりたいことや好きなことを伸ばしてあげられる環境を少しでもみんなで作って欲しいです。

山中委員)

先日、愛知県の世界的有名な自動車メーカーへ伺う機会がありました。以前は3年で辞めてしまう人が非常に多かったようですが、最近は入社する前に職場体験とか、インターンシップをやって短期間で辞めてしまう人が減ったという話がありました。

今日、皆さんのお話を聞かせていただきまして、田中委員の職場体験事業や朝の連続ドラマ「舞い上がれ」のモデルにもなった MACHICOCO など、東大阪って無形の財産が沢山あるんだと感じております。

それを1年間、非常に有機的に結びつけられてきたんじゃないかなと思います。

やっぱり市長がおっしゃられるような好きなことをその中で見つけて、それは社会に出たときに上手く使える。

東大阪のいろんな財産を活用してやっていければなと思います。

野田市長)

子どもたちの教育というのは、やっぱり学校っていう場所だとみんな思ってしまうんですけど、東大阪って町全体が学校というような、そういう捉え方をしていくと変わってくるかなと思いますし、先生方も個々に発信をしながら学校っていうのは学校の敷地だけじゃないんだというところで自ずと変わってくる。

そういう意味では東大阪はいろんな資源がありますし、モノづくりの現場でもいろんな場面でご協力をいただいて、そういう意味ではコーディネートしてくれています。

昨日、愛ガードの20周年記念がありました。

愛ガードに参加されている方にお話を聞きますが確かに暑い日、寒い日、雨の日、風の日も大変だと思います。

しかし子どもたちのためにということで決して何かやらされてやってるんじゃない。

自分自身が意義を感じてある意味、楽しみながらやっているという大変ありがたいお言葉を聞かせて貰います。

そういった意味で年配の方たちが子どもたちに救われるっていう場面もあったり、ご高齢の方も社会参加だとかこれも生涯教育だと思うんですね。

やっぱりこういう町というのはすごく元気だし、人がどんどん動いて、まち全体を作っていくことで、愛ガードは間違いなく1つの社会教育だと思いますし、ものすごく大きな我々の誇りだと思います。

社会教育とか生涯教育の観点で何かありませんか。

古川教育長)

約2年掛けて小中学校、高校のすべての屋内運動場に空調設置を行いました。
学校教育はもちろん、子どもたちが帰った後の場所を生涯スポーツの場として活用できる。
またさらに言えば災害時避難所として快適な空間で過ごすことができる。
今後も地域のイベントなどにも使用していただけたらと思っています。

早崎社会教育部長)

学校の施設を利用した開放事業もやっておりますので、そこで地域の方にも参加していただいております。教育長がおっしゃったように屋内運動場も綺麗に整備をしていただいている方々に使用していただいております。

野田市長)

新しい施設を作ることが現実的に難しい中で、今ある施設を上手く活用することは本当に多くの人たちにいろんな社会活動をしていただけたらと思います。

もちろん施設の維持という管理の部分は大変だと思いますが、知恵を絞りながらやっていただきたいと思います。

今年のお正月に永和の方を歩いていたら元日も図書館が開いていたんですね。

他の町から来られて2年目ぐらいだとおっしゃる方に声を掛けて貰い、お正月に図書館が開館されているのはすごい事ですねとおっしゃっていただいた。

指定管理になって良い面が出たと思います。

いろんな工夫をすることで結果、開館時間を増やす努力ができた。

市民の皆さんが社会教育・生涯教育に触れられる工夫をこれからも続けていきたいですね。

社会教育センターでも結構いろいろやってくれていますよね。

冒頭に教育長が説明をされた以外で何かどうでしょうか。

堤委員)

今、市の図書館のお話がありましたが、子どもたちの拠点になる学校図書室が毎日開いている、放課後も開いているとか不登校の子たちの環境作りもお願いできたらと思っております。もう1点、学校の校舎を含めていろいろ最適化を図るということですけど、やっぱり東大阪ってすごいですよね、学校もすごいですよねって言って貰えるような。市民の方も保護者の方も子どもたちも東大阪の学校ってわくわくするよねと言ってもらえるようなそのような形でお願いできたらなと思っております。

野田市長)

ありがとうございます。

色んなところを結びつけていきながら、また学校施設を活用しながら取り組んでいけたらと考えております。

話は飛躍しますけれども、市内にある4大学に小学生や中学生が入るっていうのは、難し

いところもありますが、大学で許せる範囲で子どもたちを受け入れていただけたらとか、そういったことも積極的にアプローチ出来れば良いと思います。大学からこんなんでしょうかという受け入れを待つのではなく、事務局も忙しいと思いますがこちらから何か一緒にできませんかと申し入れをしてみるのも良いのではないのでしょうか。

古川教育長)

近畿大学理工学部で体験学習をやっていただきました。

大学内で実験を体験させて貰ったり、先日はカラフルコミュニケーションパークの会場も提供いただきました。

子どもたちは初めて大学の中に入って、さまざまな体験をさせていただいた。

最近では、樟蔭女子大学の部長といろいろ連携することができないかという話し合いもしておりますし、4大学ある中で、様々な連携や子どもたちの受入れなどそういったことを今後さらに一層進めていきたいと考えております。

野田市長)

山中委員がおっしゃったようにモノづくり企業へ職業体験に来ていただいたりすることで学ぶことが楽しい或いは体験することが楽しいと感じて貰いたいですね。

学校の延長上が楽しかったら学校そのものが楽しいと感じると思うのでここは大人が頑張って協力しながら子どもたちのために環境を整えたいと思います。

他に何かご発言はございますでしょうか。

事務局の方からは何かございますか。

中西公室長)

特にございません。

野田市長)

それでは本日予定しておりました内容はこれで終了といたします。

また教育委員の皆様におかれましては、それぞれ気付かれたこと或いはそれぞれの立場の中で市の教育に繋がることがございましたら忌憚のないご意見をお願いいたします。

これをもちまして、令和6年度第1回総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。